

群 教 七	G02 - 03
	平16.219集

生徒の興味や関心を高める 歴史の課題解決学習の工夫

- 話し合いによって考えるグループ学習を通して -

特別研修員 黨 誠一（松井田町立東中学校）

《研究の概要》

本研究は、グループごとの話し合いによる歴史の課題解決的な学習過程において、生徒の歴史への興味や関心を高めることを目指したものである。考える材料となる資料や教師の助言を参考に、過去にさかのぼって考えられる課題を設定し、仮説を立てて自分たちで調べ検証する学習活動を通して、歴史に対する興味や関心を高められたかについて考察する。

【キーワード：社会 - 中 歴史 中高一貫教育 課題解決学習 グループ学習】

主題設定の理由

国立教育政策研究所教育課程研究センターから発表された平成13年度中学校教育課程実施状況調査には、社会科嫌いが多いというアンケート結果が見られる。対象生徒約24万3000人の中で中学3年生のデータを見ると、85.3%の生徒が社会科が大切であると答えているのにもかかわらず、好きと答えた生徒が52.3%で嫌いと答えた生徒が42.6%もいる。しかも、この数字は小学校5年生からほとんど変化していない。特に歴史は、興味や関心をもつ生徒がいる反面、覚えることが多くて嫌いと答える生徒が少ない。

本学級では過半数の57.1%の生徒が歴史が嫌いであると答えている。自分自身の授業を振り返った時に、生徒の興味や関心を十分高め、生徒が主体的に学習できるような授業をしているか反省すべき点が多い。

一方、県立中央中等教育学校では、総合的な学習の時間において、生徒が主体的に活動を進めていくために、COM（コミュニケーション）とICT（インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジー）とGE（グローバル・エデュケーション）という領域を設けている。特にGEは、生徒自身が自ら課題を見つけて、調べまとめる学習を展開している。この方法は、本校の社会科の授業においても十分導入できるものであると考える。

以上のことから、生徒の歴史への興味や関心を高め、学習意欲を高めるためには、考える楽しさを味わう歴史、歴史的因果関係について考えることが面白いと生徒が実感できるような授業、歴史は過去と現在を結び付け、未来について考えるから大切であり面白いと思える授業を行うことが重要だと考えた。

そこで、最近ニュース等で取り上げられた問題について歴史をさかのぼって歴史的事実の評価について多面的・多角的な面から考えられるような材料を教師が提示することとした。そして、なぜ、そのような評価がされるのか生徒が課題を設定できるように資料の読み取りや考え方について指導し、課題を解決するためにグループで話し合っ仮説の検証をする活動を授業で継続的に行えば、生徒の歴史への興味や関心を高められると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

教師が考える材料となる資料や助言を与え、考え方を示唆し、生徒が過去にさかのぼって考えられる課題を設定し、仮説を立てて検証する活動を、グループでの話し合いを通して行うことにより、生徒の歴史に対する興味や関心が高まることを明らかにする。

研究の見通し

考える材料となる資料や助言を教師が与えることによって、過去にさかのぼって考える課題を設定し、仮説を立てて自分たちで調べ検証する「話し合いによって考えるグループ学習」を行えば、互いに相違点を認識し、課題に対する思考を深め合い、多面的・多角的な考え方を身につけ、生徒は歴史への興味や関心を高めるであろう。

研究の内容

1 基本的な考え

(1) 「課題解決的な学習過程」とは

本研究では教師が、生徒をゆさぶる身近な資料を与え、考え方について助言する事によって生徒の興味や関心を喚起し、個人またはグループにおいて学習意欲が高まるような課題を設定できるようにし、グループでの話し合い活動を通して仮説を立て検証し考えを深める過程を、「課題解決的な学習過程」としている。この学習過程で歴史に対する興味や関心が高めることを目標とする。

資料は、県立中央中等教育学校におけるGEに取り入れられるように外交・文化を主として提示し、そうした現在の問題を「なぜ、～なのか」という切り口で考えさせ、さらにそこで生まれた疑問を解決するために、過去にさかのぼって考えられるようにする。また、現代社会が抱える様々な問題に対して知識だけの理解で終わらせずに、将来を担う地球市民としての態度が育つことを意識して広がりのある課題を考えられるようにする。「過去にさかのぼって考える学習」については特に生徒の実態に留意する必要があり、教師的的確な支援が不可欠であり、今まで以上に十分に教材研究を行う必要がある。中学生にとって難易度が妥当で、興味や関心が高められる材料を用意し、どのような課題、展開が考えられるかシミュレーションを行い、的確な支援が行えるよう十分な準備を心掛けたい。

(2) 「話し合いによって考えるグループ学習」とは

歴史的事象に関する疑問をもとにした課題の設定や仮説を立て検証する作業を、グループでの話し合いによって行う。異なる見方や考え方に触れ、多面的多角的に歴史をとらえることを学び、歴史に対する興味や関心高める。

(3) グローバルエデュケーションとは

県内で初の公立の中高一貫校である中央中等教育学校で行う総合的な学習の時間、「COM(コミュニケーション)」「ICT(インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジー)」「GE(グローバル・エデュケーション)」という3本立ての柱の中心となるものである。

各教科で必要な資質や能力や学習内容と関連させて実施していくことで、横断的・総合的な学習としての特長を生かし、問題解決能力や学び方、ものの見方・考え方、国際コミュニケーション能力を身に付けていく。私は、日本が現在まで多くの国の影響を受けて文化を形成してきたことを認識し、現在の日本の文化や外交面から歴史をさかのぼって考えることで生徒が国際理解を深め、GEに役立つ資料が提供できると考える。

研究の方法

- 「身近な題材から、現在から過去にさかのぼって考える」というテーマは、具体的には、小テーマと大テーマの二つに分けて行う。については、授業の導入段階で扱い、継続的に行うものとしてとらえ、短時間である程度の解答が出せるものとする。については、本編の1～2時間を使って現在から過去にさかのぼって考える学習を展開する。
- 進め方は、以下の手順で行う。通年固定の男女混合の4～5人のグループを編成する。生徒の関心が高い身近な問題に関する資料や、それに通じる歴史的資料を教師が提示し、グループ毎に課題を設定し、発表後クラス共通の課題を設定する。現在はどうであるか確認する。昔はどうであったのか、予想をさせる。グループで疑問や意見を出し合い。必要な知識を確認したり調べたりして意見を絞っていく。グループの中から出てきた課題の中から一つを共通の課題とする。グループごとに発表し合い、理解や認識を深める。そこで生まれた疑問について更に調べ考えていく。適宜教師が、思考を深めるための支援を行う。
- 研究の検証は、個人・グループの評価カードに記述された内容や生徒へのアンケートなどのデータを分析して、歴史に対する興味や関心が高まったかを調べることによって行う。また、全体の変容を調べると共に、課題のタイプの違うの生徒を4人抽出し、その変容を調べて、この研究が有効であった点を検証し、今後の課題設定の材料とする。
(評価カードは資料編P3参照)
- 研究の見通しに基づき、以下の計画で授業実践を行い、検証する。

(1) 授業実施計画と検証計画

対象	松井田町立東中学校 2年B組(28名)	単元名	「世界恐慌と日本の中国侵略」
実施期間	平成16年10月22日		
検証項目	検証の視点	検証の方法	
見通し1	つかむ過程において、考える材料となる資料を与え、考え方を教師が示唆することが、歴史に対する興味や関心を高める上で有効であったか。	与えられた資料に興味や関心をもって見ているか、その意味や内容を理解し、考えているかを確認する。 ・観察	
見通し2	追究する過程において、そこからどんな課題が設定できるか考え、仮説を立てて自分たちで調べ検証する学習活動をしたことが、興味や関心を高めるのに有効であったか。	そこからどんな課題ができるかを考え、「なぜ現在～なのか？」という課題に対し、仮説を立てて、興味や関心を持って個人の意見を考えているかを見取る ・学習カードの記録 ・観察	
見通し3	まとめる過程において、その課題をグループで話し合っ、友達の考えを認め、多面的・多角的な考え方を育んだことが、歴史に対する興味や関心を高める上で有効であったか。	個人の意見をグループでの話し合いの中で積極的に出し合い、考えを深める過程において歴史に対する興味や関心が高まっていったかを分析する。 ・発表 ・観察	

(2) 抽出生徒について

A男	知識が豊富で、課題に対する理解力は優れているが、興味や関心はさほど高くない。話し合いに積極的に参加させ、他人の意見を聞き多面的・多角的な考えを持てるようにさせたい。
B女	理解力があり、真面目で興味や関心も高い。課題解決学習を重ねることで、興味や関心をさらに高め、理解を確実なものにさせたい。
C男	授業に集中して取り組むことが苦手で、興味や関心も高くはない。課題解決学習を重ねることで、友達からいい影響を受けて、興味や関心を持たせたい。
D女	理解力はあるが、深く考えることが苦手で意欲的に取り組めないことがある。話し合いに積極的に参加させ、他人の意見をよく聞き、多面的・多角的に考えられるようにさせたい。

(3) 評価規準(松井田東中) は課題解決的学習での評価規準

おおむね満足できる状況	十分満足できる状況
社会的事象への関心・意欲・態度	
世界恐慌の概要と欧米諸国の対応、日本の中国侵略の実態に対する関心を高め、意欲的に追究している。 課題について、関心を高め、意欲的に調べようとしている。	世界恐慌の概要と欧米諸国の対応、日本の中国侵略の実態に対する関心を高め、進んで資料を収集したり、友達と考えの交流を図ったりしながら意欲的に追究している。 課題について、関心を高め、進んで資料を収集したり、友達と考えの交流を図ったりしながら意欲的に調べようとしている。
社会的な思考・判断	
世界恐慌に対する欧米諸国の対応の様子や当時の日本の状況を多数の視点で考えている。 課題について、学習の見通しをもって追求し解決し、考えている。	世界恐慌に対する欧米諸国の対応の様子や当時の日本の状況を、多数の面で捉えた上で、相互に関連づけて考えている。 課題について、学習の見通しをもって追究し解決し、相互に関連づけて考えている。
資料活用の技能・表現	
世界恐慌の概要と欧米諸国の対応、日本の中国侵略の実態に関する絵画や文献、映像、統計・グラフなどの様々な資料を収集し、活用している。 課題に関する絵画や文献、映像、グラフなどの様々な資料を収集し、活用している。	世界恐慌の概要と欧米諸国の対応、日本の中国侵略の実態に関する絵画や文献、映像、統計・グラフなどの様々な資料を課題を定めて収集し、情報を適切に選択して活用している。 課題に関する絵画や文献、映像、グラフなどの様々な資料を課題を定めて収集し、情報を適切に選択して活用している。
社会的事象についての知識・理解	
日本の中国侵略の実態を我が国の歴史と関わる世界の歴史を背景に理解している。 課題について、過去にさかのぼって考え、歴史を背景に理解している。	日本の中国侵略の実態を我が国の歴史と関わる世界の歴史を背景に理解するとともに、国家形成に携わった人々の努力に気づいている。 課題について、過去にさかのぼって考え、歴史を背景に理解するとともに、人々の努力に気づいている。

研究の展開

1 現在、考えられそうなテーマの抽出と精選を行う。

生徒が、興味関心授業の導入部分で使うもの（小テーマで行う活動）と、1時間以上かけてじっくり考えさせたいもの（大テーマで行う活動）に分けて考える。生徒が興味や関心を持ちそうな資料を収集し、そこから考えられるであろう生徒が設定する課題をできるだけ予想する。そして、展開の予想をできるだけ考え、シミュレーションする。その際、偏った見方に陥る恐れのないように配慮する。

2 授業実践（資料編P4、8参照）

3 授業後の各自の生徒や、各グループの評価カードを整理して分析し、生徒の興味や関心、思考の変容を調べ、次回の資料収集や課題設定に役立つように反映させる。

（資料編P9～11参照）

研究の成果と今後の課題

1 アンケート結果と考察

(1) アンケート結果（2年B組） ... 9月実施 ... 1月実施

番号	興味・関心があるか	歴史に興味・関心が高まったか	歴史が好きか	歴史が好きになったか	意欲的に授業に臨んでいるか	授業に臨む意欲が高まったか	テーマ学習はおもしろかったか	テーマ学習をまたやってみたいか
1	1 -	変わらない	1 -	変わらない	1 +	変わらない	ふつう	2 -
2	1 +	1 +	1 +	1 +	1 +	1 +	ふつう	1 +
3	1 -	変わらない	2 -	変わらない	1 -	変わらない	ふつう	2 -
4	2 -	変わらない	2 -	変わらない	1 +	変わらない	ふつう	1 -
5	2 -	変わらない	2 -	変わらない	2 -	変わらない	ふつう	1 -
6	1 +	変わらない	2 -	変わらない	1 -	変わらない	ふつう	1 -
7	1 -	変わらない	2 +	変わらない	1 +	変わらない	ふつう	1 +
8	1 -	変わらない	2 -	変わらない	1 +	変わらない	ふつう	1 +
9	2 +	2 +	2 +	1 +	1 +	1 +	1 +	2 +
10	1 -	変わらない	1 +	変わらない	2 +	変わらない	ふつう	1 -
11	2 +	変わらない	2 +	変わらない	1 +	変わらない	ふつう	1 +
12	1 -	変わらない	1 -	変わらない	1 -	変わらない	1 +	1 +
13	1 +	2 +	1 -	1 +	1 +	1 +	1 +	1 +
14	2 -	変わらない	2 -	変わらない	2 -	変わらない	ふつう	1 +
15	2 +	2 +	2 +	変わらない	2 +	変わらない	2 +	2 +
16	1 -	変わらない	1 -	変わらない	1 +	1 +	1 +	1 +
17	2 -	変わらない	2 -	変わらない	2 -	変わらない	ふつう	1 -
18	1 -	変わらない	1 -	変わらない	1 -	変わらない	2 -	2 -
19	1 +	変わらない	1 -	変わらない	1 +	1 +	ふつう	1 +
20	1 +	変わらない	1 -	変わらない	2 -	変わらない	ふつう	1 +
21	1 -	変わらない	1 -	変わらない	1 +	1 +	ふつう	1 +
22	2 +	1 +	2 +	2 +	2 +	2 +	ふつう	1 +
23	1 -	変わらない	1 -	変わらない	1 +	変わらない	ふつう	1 -
24	1 -	変わらない	1 -	変わらない	2 +	変わらない	ふつう	1 +
25	1 -	変わらない	1 -	変わらない	1 +	変わらない	ふつう	1 -
26	2 +	1 +	2 +	変わらない	1 +	1 +	ふつう	1 -
27	1 +	変わらない	1 +	1 +	1 +	変わらない	ふつう	1 +
28	1 +	変わらない	1 +	変わらない	2 +	変わらない	ふつう	1 -

表記の例示...好き2+、どちらかといえば好き1+、どちらかといえば嫌い1-、嫌い2-

アンケート（9月実施）の結果

- 1 社会科に興味・関心があるか。
 ある 5 どちらかといえばある 7 どちらかといえばない 1 2 ない 4
- 2 歴史が好きか。
 好き 6 どちらかといえば好き 4 どちらかといえば嫌い 1 1 嫌い 7
- 3 好きの理由
 ・いろいろな人物が出てきて楽しい6
 ・歴史を動かす事件、出来事が好き3
 ・昔のことがわかって楽しい2
 ・人類の進化の様子を知ることが楽しい
 ・昔の情景を深く考えるのは、興味深い
 ・過去を今と結びつけて考えるとおもしろいから
- 4、嫌いの理由
 ・覚えることが多いから1 6
 ・暗記が苦手で、おもしろくない
 ・時代がごちゃごちゃになる
- 5 意欲的に授業に臨んでいるか。
 はい 5 どちらかといえばはい 1 5 どちらかといえばいいえ 4 いいえ 4
- 6 テレビのニュースを見るようにしているか。
 はい 1 4 どちらかといえばはい 6 どちらかといえばいいえ 7 いいえ 1
- 7 調べてみたい歴史のテーマを挙げよ。
- 8 歴史を勉強するのはなぜだと思いますか。（自由記述）
 ・受験のため7 ・常識を知り、社会に出て役立つ4
 ・過去を知って未来を生きるため4 ・わからない2
 ・昔と今はどう変わっているか2 ・同じあやまちを繰り返さないため2
 ・将来、歴史博物館などの仕事に就く人のため2 ・文化財など、昔のものを大切にするため
 ・先人の考えに学ぶ ・いままで発展してきた方法を知って、今後の社会を変えていけると思える

アンケート（1月実施。1～3は9月の時点と比較して）の結果

- 1 歴史に興味・関心が高まったか。
 たいへん高まった 4 少し高まった 4 変わらない 2 2 低くなった 0
- 2 歴史が好きになったか。
 好きになった 1 どちらかといえば好きになった 4 変わらない 2 3 どちらかといえば嫌いになった 0 嫌いになった 0
- 3 授業に臨む意欲が高まったか。
 たいへん高まった 1 少し高まった 7 変わらない 2 0 低くなった 0
- 4 テーマ学習はおもしろかったか。
 たいへんおもしろかった 1 少しおもしろかった 4 ふつう 2 2 どちらかといえばおもしろくなかった 0 おもしろくなかった 1
- 5 テーマ学習をまたやってみたいか。
 はい 2 どちらかといえばはい 1 4 どちらかといえばいいえ 9 いいえ 3
- 6 はいの理由
 ・なかなかおもしろい6
 ・ただ話を聞いているよりおもしろい3
 ・自分で調べることで頭に入る2
 ・楽しくて力がつくと思う
 ・みんなの意見が分かる
 ・考えることや話し合うことが必要
 ・教科書に載っていないことが分かる
 ・自分で思ったことを深く調べられる
- 7、いいえの理由
 ・課題が難しい3
 ・時間がかかる3
 ・歴史に興味を持てない2
 ・考えるのが苦手2
 ・おもしろくない
 ・意見を出すのが苦手
 ・集中できない人が出る

(2) アンケート結果の考察

ア 歴史に興味や関心が高まったか

上記のように、9月と1月にアンケートを行いその結果から分かることを考察すると以下のようことがわかった。「歴史に興味・関心が高まったか」については、低くなったと答えた者がいなかったことと、高まったと答えた者が8名であることから、ある程度の効果が現れたといえる。しかし、変わらないと答えた者が多い事実を受け止めなくてはならない。

イ 歴史が好きになったか

次に「歴史が好きになったか」であるが、5名が好きになったと答えている。また、変わらないと答えた者が大変多いが、その中には当初から歴史好きだった者が含まれており、嫌いになったと答えた者がいないことからよい方向へ進んだと考えられる。

ウ 意欲が高まったか

次に、「授業に臨む意欲が高まったか」であるが、8人が高まったと答えており、同じようなことが言える。そして「テーマ学習はおもしろかったか」であるが、おもしろかったと答えた生徒が5名と、やや少なかった点から、公立学校における全ての生徒の学力に合わせたテーマ設定の難しさがうきぼりになった。また、「テーマ学習をまたやってみたいか」については、16名が「はい」と答え、12名が「いいえ」と答えた。

「はい」の理由としては、「なかなかおもしろい6」をはじめ、「考えるのが楽しくて力がつくと思う3」「自分で調べる事で頭に入る」「考えることや話し合うことは大切」「みんなの意見が分かって一つにまとめる力になる」「教科書に載っていないことが分かる」「自分で思ったことを深く調べられる気がする」など、前向きな意見やグループ学習の大切さに言及した意見まであった。反対に、「いいえ」の理由として、「考えるのが苦手3」「課題が難しい3」をはじめ、「歴史は興味を持たない」「グループでは集中できない人がいる」等の意見があった。また、「楽しいけれど、時間がかかるので教科書が進まず心配」などもあった。これらは、今後の課題にも繋がっていくので、貴重な意見として謙虚に受け止めて改善していく必要がある。

(3) 抽出生徒の変容に関する考察

ア A男は、普段の授業では挙手は少ないが、知識・理解に優れた生徒である。当初は小テーマでの仮説も、知識が多いため深く考えなくても答えが出てきたので一問一答形式のように深く考えたものではなかった。しかし、回を重ねるうちに記述内容も深まり、グループでの話し合いにも加わるようになってきた。アンケートの「歴史に興味・関心が高まったか」では、大変高まったと答え、「歴史が好きになった」では、どちらかといえば好きになったと答えている。

イ B女は、まじめでこつこつやる生徒で発言は少ない。しかしグループでの発表の様子を観察すると、楽しそうに自分の意見を発表し、話し合いに加わっていた。アンケートの「歴史に興味・関心が高まったか」では、少し高まったと答え、「歴史が好きになった」では、好きになったと答えている。その理由は、テーマ学習で考えることが多くなったからである。

ウ C男は、普段は意欲が低く提出物も出さない時がある。小テーマも注意しないとわからないですまってしまうこともあった。アンケートの「歴史に興味・関心が高まったか」では、変わらないと答え、「歴史が好きになった」では、変わらないと答えている。しかし、テーマ学習は、なかなかおもしろいからどちらかといえばまたやってみたいと答えていた。

エ D女は、歴史は覚えることが大変なのでどちらかといえば嫌いだと答えていた生徒である。アンケートの「歴史に興味・関心が高まったか」では、変わらないと答え、「歴史が好きになった」では、変わらないと答えている。しかし、授業に望む意欲は高まりを見せ、教科書に載っていないこともわかるから、テーマ学習をまたやってみたいと変容を見せた。

2 研究の成果

授業記録の感想から、自分なりの思いや考えを持つ生徒が出てきたことがわかる。

(資料1)

学習カードから、抽出生徒四名とも自己目標を持って学習課題に取り組み、学習意欲も授業が進むにつれて本人なりに高くなってきたことがわかる。(資料 P9、10参照)

グループ学習のまとめの感想の記述から、気づきや多面的な物の見方ができ、社会認識が深まったことがわかる。(資料2)

資料1

The image shows a screenshot of a learning card interface. At the top, it says '学習カード (小テーマ) ⑩' and '【新しい生活と文化】'. Below that, there are fields for '月' (Month) and '日' (Day), and a '学習者名' (Student Name) field. The 'テーマ' (Theme) field contains the text: 'なぜ、大正時代の文化は大衆化された文化といわれたのだろうか。'. Below the theme field, there is a '目標' (Goal) field with the text: '課題を達成し、自分の考えを表現し、他の生徒の考えを学ぶ。 (学習意欲を高めることが目的)'. At the bottom, there is a '感想' (Reflection) field with the text: 'この学習カードも、テーマと関わり、大正時代の文化について自分なりの考え、気づきを得ることができた。自分なりの考えを表現することができた。 (学習意欲を高めることが目的)'. The interface has a clean, white background with black text and a simple border.

資料2

自分達の班の考えと他の班の考えが違ったこともたくさんあった。だから...
いろいろな面から課題と考えることができた。

授業中、グループでの話し合い活動において主体的な追究活動ができ、さらに自分自身で新たな課題に取り組む姿勢が見られるようになった。

歴史に興味や関心をもち、新聞記事や家にある古い物などを自主的に調べて、その結果やテレビ番組の歴史ニュース等を朝の会などで発表する生徒も見られるようになった。

示す資料、思考・発展方法を工夫する中で、地理や公民との結びつき、連続性を見いだしていけるなど、多くの可能性が見えてきた。

3 今後の課題

知識が不十分な生徒に対して、課題について考えられるような資料を示してやることが不十分であった。課題解決的な学習過程を取り入れた授業を行っていく場合、教科書にとらわれることなく、より身近で考えやすい資料を用意する必要がある。また、もっと使いやすいワークシートを工夫していきたい。アンケート結果で、意欲が「変わらない」と答えた生徒が多いことから生じた反省点として、生徒の興味や関心を喚起できる資料の工夫をさらに行っていきたい。

友だちのよさを認め合い、発表によって相互に刺激し、高め合えるような自己評価の方法が確立されていなかった。グループ活動では、個人の意見について全員がコメントをするなど、言いつばなしにしないで話し合いが深められるような仕方を今後研究していきたい。

授業実践が思うように進まなかったのも、大テーマの授業を行うにあたり、生徒に考えさせたいテーマを教師自身が明確に持ち、より効率的な授業計画を考えていく必要がある。

全体の中で、生徒から出てきた意見をいかに次の展開に生かせるように助言できるかが大切である。

歴史的評価が定まっていないものや、扱いが難しいものについては配慮する必要がある。

教師は生徒一人一人を把握し、評価カード等の提出物にはコメントを書いて返してやり、注意点を一覧にして配付するなどやる気を伸ばしていける支援を考えていきたい。

歴史だけでなく、地理や公民も同じ方法で計画的に授業を行い、3年間を通して社会科で総合的な学習効果をあげられるようにしたい。

一年生の歴史で学習する近世以前は、実践できなかったのも、二年生の実践を踏まえて、来年度は一年生の実態に合わせた授業を行っていきたい。

今後は、大テーマだけでなく小テーマも何かしら教師側で資料を提示した上で、自分たちで考えたテーマも採用していきたい。

4 おわりに

学習指導要領が改訂されたことによって社会科では、生徒が自分自身の考えた方法で社会現象を調べていく「学び方を学ぶ」教育が重視されるようになってきている。自己教育力の育成、そしてそれを支える主体的な課題解決学習がこれからますます大切になってくる。未知なことに對して、生徒はいつも敏感である。興味や関心のあることを追求するときの生徒一人一人の目は美しく輝いている。そんな授業を行いたいと考えて研究を進めたが、進めれば進めるほど面白さとともに難しさを実感する。生徒一人一人が社会科が好きだ、もっと調べ、考えたいといった授業ができるように努力し、これからも授業実践を重ねていきたい。

興味や関心を持ち自分で探求する力と考える力を身に付けてもらい、ヒントを与えるだけで、自ら学習していける生徒を育成していきたい。そして、物事の本質を見抜く力を養わせたい。

今後、この研究を歴史だけでなく、地理や公民でも実践していけば、3年間を通して社会科で総合的な学習効果が期待できる。教材を作っていくことで効果が期待できるという方向性が見えてきた。今後も、継続的に研究を進めていき、すべての単元で実践していけるように努力していきたい。

参考文献

- ・群馬県教育研究所連盟 編著 『実践的研究のすすめ方』 東洋館出版社（2003）
- ・洪澤文隆 編 『中学校社会科のリニューアルと授業デザイン』 明治図書（2002）
- ・谷川彰英 編 『中学社会科の授業』 明治図書（1990）